

事項	<p>水稻を食害するコバネイナゴに対するピリダフェンチオン剤（オフナック剤）、エトフェンプロックス剤（トレボン剤）及びシラフルオフェン剤（MR.ジョーカー剤）の薬剤感受性低下</p>																
ねらい	<p>ピリダフェンチオン剤、エトフェンプロックス剤及びシラフルオフェン剤に対してコバネイナゴの感受性が低下していることが明らかとなったので、防除の参考に供する。</p>																
指 導 参 考 内 容	<p>1 薬剤感受性低下の現状 近年、航空防除地帯など同一剤の連用により効果が劣ることが指摘されているが、調査の結果下記のとおりとなった。</p> <table border="1" data-bbox="437 618 1437 1191"> <thead> <tr> <th rowspan="2">農薬名 (商品名)</th> <th colspan="2">生存率の概要</th> </tr> <tr> <th>稲体散布試験</th> <th>虫体浸漬試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピリダフェンチオン剤 (オフナック剤)</td> <td>採取地の10地点の内の黒石市中川、藤崎町藤崎及び浪岡町高屋敷の3地点で、死虫率が約30%と低くなっていた。</td> <td>藤崎町藤崎から採取のもので、死虫率が12.5%と低くなっていたが、他の7地点では死虫率が85%以上と高くなっていた。</td> </tr> <tr> <td>エトフェンプロックス剤 (トレボン剤)</td> <td>全ての地点で、死虫率が20%以下と低くなっていた。</td> <td>すべての地点で死虫率が80%以上と高くなっていた。</td> </tr> <tr> <td>シラフルオフェン剤 (MR.ジョーカー剤)</td> <td>採取地の10地点の内の常盤村久井名館、岩木町一丁田及び相馬村紙漉沢の3地点で、死虫率が15～45%と低くなっていた。</td> <td>採取地の10地点の内の相馬村紙漉沢、岩木町一丁田及び弘前市藤代の3地点で、死虫率が40%以下と低くなっていた。</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 防除対策 (1) 上記の剤を前年まで使用し、コバネイナゴに対して効果がみられなかった地域では他の薬剤に変える。 (2) また、下記の薬剤を移植3日前～移植当日に育苗箱の上から箱当たり50gを均一に散布することでも防除ができる。 (殺虫剤単剤) プリンス粒剤、ガゼットプリンス粒剤、ギャング粒剤 (殺虫殺菌剤) Dr.オリゼプリンス粒剤 6</p>			農薬名 (商品名)	生存率の概要		稲体散布試験	虫体浸漬試験	ピリダフェンチオン剤 (オフナック剤)	採取地の10地点の内の黒石市中川、藤崎町藤崎及び浪岡町高屋敷の3地点で、死虫率が約30%と低くなっていた。	藤崎町藤崎から採取のもので、死虫率が12.5%と低くなっていたが、他の7地点では死虫率が85%以上と高くなっていた。	エトフェンプロックス剤 (トレボン剤)	全ての地点で、死虫率が20%以下と低くなっていた。	すべての地点で死虫率が80%以上と高くなっていた。	シラフルオフェン剤 (MR.ジョーカー剤)	採取地の10地点の内の常盤村久井名館、岩木町一丁田及び相馬村紙漉沢の3地点で、死虫率が15～45%と低くなっていた。	採取地の10地点の内の相馬村紙漉沢、岩木町一丁田及び弘前市藤代の3地点で、死虫率が40%以下と低くなっていた。
農薬名 (商品名)	生存率の概要																
	稲体散布試験	虫体浸漬試験															
ピリダフェンチオン剤 (オフナック剤)	採取地の10地点の内の黒石市中川、藤崎町藤崎及び浪岡町高屋敷の3地点で、死虫率が約30%と低くなっていた。	藤崎町藤崎から採取のもので、死虫率が12.5%と低くなっていたが、他の7地点では死虫率が85%以上と高くなっていた。															
エトフェンプロックス剤 (トレボン剤)	全ての地点で、死虫率が20%以下と低くなっていた。	すべての地点で死虫率が80%以上と高くなっていた。															
シラフルオフェン剤 (MR.ジョーカー剤)	採取地の10地点の内の常盤村久井名館、岩木町一丁田及び相馬村紙漉沢の3地点で、死虫率が15～45%と低くなっていた。	採取地の10地点の内の相馬村紙漉沢、岩木町一丁田及び弘前市藤代の3地点で、死虫率が40%以下と低くなっていた。															
期待される効果	コバネイナゴに対する適切な防除が可能になる。																
利用上の注意事項	なし																
担 当	青森県農業試験場 病虫肥料部	対象地域	県下全域														
発表文献等	平成11年度 青森県農業試験場試験成績概要集																

【根拠となった主要な試験結果】

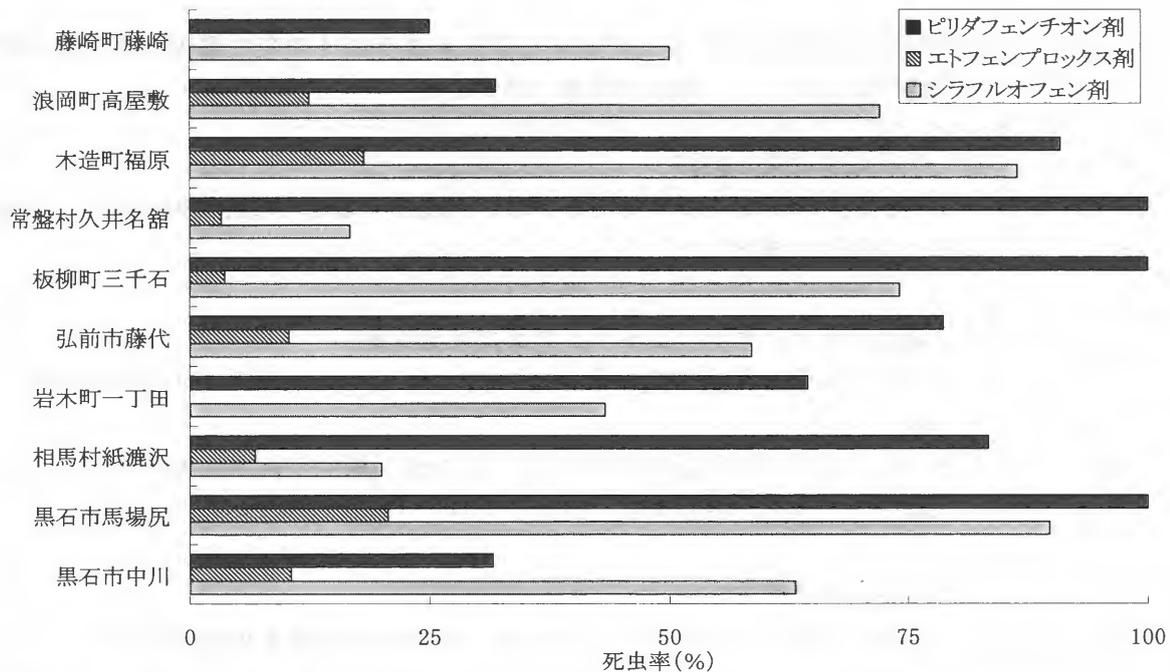


図1 稲体散布試験によるコバネイナゴの死虫率 (平成10~11年 青森農試)

- 注1) 死虫数には苦悶虫も含む。(試験年次は図2も同様)
 平成11年：藤崎町藤崎、浪岡町高屋敷、木造町福原から採取の亜終齢~終齢幼虫の3日後の死虫率
 2) 平成10年：常盤村久井名館、板柳町三千石、弘前市藤代、岩木町一丁田、相馬村紙漣沢、黒石市馬場尻・中川から採取の亜終齢~終齢幼虫の5日後の死虫率
 (但し、弘前市藤代、黒石市中川採取のものは中齢幼虫も含む。)

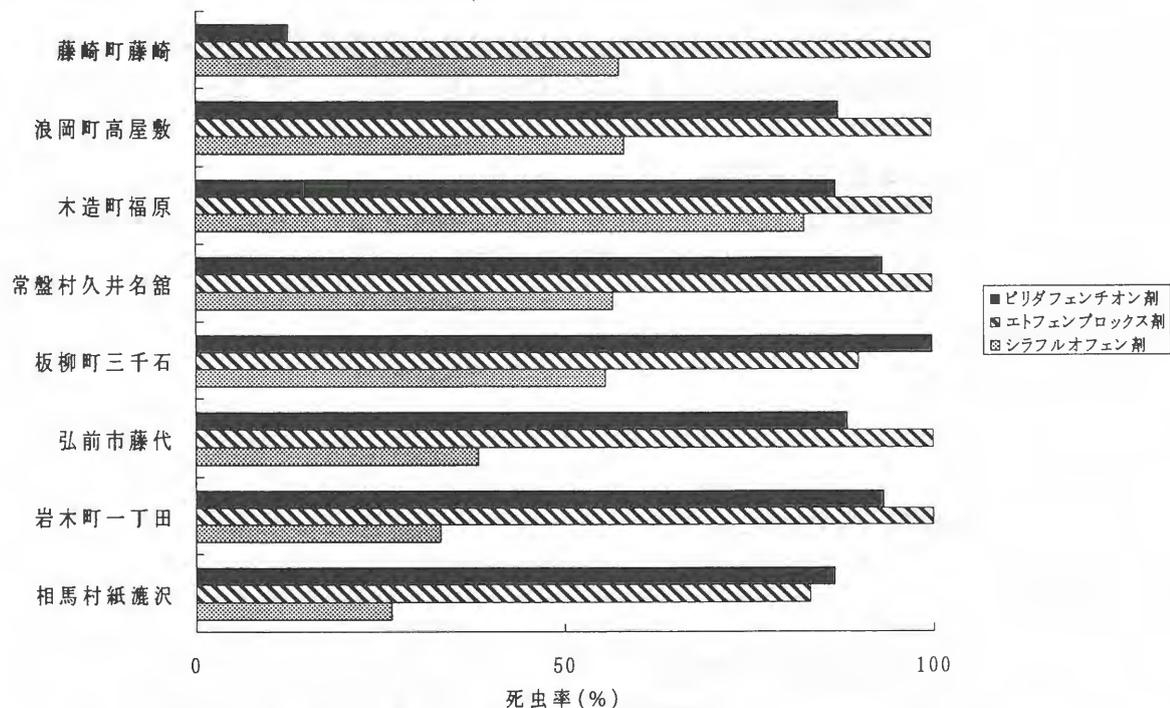


図2 虫体浸漬試験によるコバネイナゴの死虫率 (平成10~11年、青森農試)

- 注1) 死亡数には苦悶虫も含め、48時間後の死虫率をabbottの式により補正した。
 2) 供試齢数 平成11年：亜終齢~終齢幼虫 平成10年：成虫